

「教職大学院での学びのすすめ」

宮城県仙台第二高等学校 教諭 大野 英子

平成 5 年～ 岩手県立久慈農林高等学校 平成 8 年～ 宮城県白石工業高等学校
平成 10 年～ 宮城県蔵王高等学校 平成 15 年～ 宮城県白石女子高等学校
平成 20 年～ 宮城県村田高等学校 平成 26 年～ 宮城県経済商業観光部国際経済・交流課
平成 28 年～ 宮城教育大学教職大学院 現職派遣（宮城県仙台第二高等学校勤務）

私は大学卒業後岩手県で教諭として採用になり、宮城県を受け直して 20 年余りが経過しました。教諭以外では、宮城県庁に出向し、行政職員として JET プログラムの ALT（外国語指導助手）や県内の中学校の英語教員の資質向上を目的とした研修会の企画・運営をしたり、CIR（国際交流員）とともに国際交流事業に携わったりしておりました。仕事に恵まれ充実した毎日を送っておりましたが、「自分にはもっと勉強が必要ではないか」とスキルアップについて考えることが何度かありました。仕事と子育てをしながら



新規 JET 研修の一コマ

ら通信教育で大学院の単位を取り、高校の教員免許を専修免許に上進したり、アメリカの大学の外国語教授法のオンライン講座を受講したりしましたが、じっくりと勉強できる時間は取れず、もやもや感が自分の中にくすぶっていました。やがて、学年主任や教務主任を経験し、中堅教員研修（各地域の中核となる中堅教員育成を目的とした研修で全国から参加者が集まっているもの）を受講したことで学校経営について興味を持つようになり、幸運なことに教職大学院に派遣されることになりました。



宮城教育大学は私の母校ですが、教職大学院での学びは学部とはまた違う学びにあふれています。「理論と実践の往還」という言葉が授業の中で何度も出てきたとおり、今まで自分が過去の経験則で行ってきたことを、理論的に見直す場面がふんだんにあります。また、



（学校組織マネジメント研修の一コマ）理想の学校を作るため、熟議して戦略マップを作成

た、「旬」な取組をしている学校や教育関係機関を訪れる機会が用意されており、良い刺激になりました。特に私が印象に残っている研修が、独立行政法人教員研修センター（現 独立行政法人教職員研修支援

機構)主催の「学校組織マネジメント指導者養成研修」でした。全国から集まった先生方とカリキュラム・マネジメント等の講義を受け、校種ごとのグループに分かれて戦略マップを作成し、発表したことが自分にとって大きな糧となりました。理想の学校づくりについてグループ内で熱く語り合い、戦略マップが完成する頃には、まるで自分が勤務する学校であるかのように感じられました。また、この原稿を執筆中の現在、文部科学省でインターンシップをさせていただいており、中央の教育政策がどのように作られているか、直にお話を聞くことができ、何物にも代えがたい経験をさせていただいております。文部科学省も現場の教員も教育に対する情熱は同じであると実感しています。

教職大学院の仲間には、小学校や中学校、特別支援学校に所属する現職教員の他、学部を卒業したてのストレートマスター(ストマス)がいます。異校種の現職仲間から学ぶことやストマスから若手ならではの感じ方や気づきを学びながら過ごす毎日は、ここでしか味わえない生活ですし、県内外のさまざまな公開研究会に足を運んで、聞いてきたことを仲間と共有することで吸収できることが倍増します。教職大学院に入学し、宮城県内には日々さまざまな取組を実践されている先生方がいることがわかり、教育に携わる情熱と意欲をかきたてられる場でもあります。また、宮城教育大学の教職大学院には高志会という同窓会があり、私は来年度開催予定の創立10周年記念行事の実行委員として活動しています。高志会を通じて先輩たちともネットワークができ、さまざまな出会いがあります。大学院修了後も、それぞれの勤務校で御活躍の先輩方の姿に勇気付けられることは一度や二度ではありません。



大学院の先生を囲み芋煮会も

私は宮城県で教員になったことで教職大学院に派遣され、貴重な経験をする機会をいただきました。現場の教員になって持つ課題意識は、学生時代とは異なるもの。教職大学院への派遣等勉強の機会が開かれています。みなさんも宮城県で教員になり、学び続ける教師として宮城の子どもたちを育てていきませんか。